来て Kite 見て Mite 新潟県立大学！

Niigatakenritsudaigaku

地域振興は人づくりから── 地方に根ざし、世界にはばたく新潟県立大学

University of Niigata Prefecture

新潟県立大学広報誌

2013.7
No.9
新潟県立大学ニュース

CONTENTS

卒業式・入学式 2
就職・国家試験結果 3
卒業研究発表会 4
学生生活・学生活動 6
海外研修・留学 7
授業紹介 8
ゼミ紹介 9
教員の思い出の1冊・図書館紹介 10
東京サテライト 11

■ 新潟県立大学の基本理念

○国際性の涵養
東アジアをはじめとする世界の人々との社会的・文化的交流を促進し、グローバルな視点からの教育研究を進めます。

○地域性の重視
郷土の自然・文化への理解をもって地域づくりや地域の共生を担う人材を育成し、地域社会に開かれた大学を目指します。

○人間性の涵養
豊かな人間性を培うために、学生一人ひとりに対してきめ細やかな教育を行い、学生同士が切磋琢磨し学び合う環境をつくります。

■ 学部・学科構成　男女共学　四年制

国際地域学部	国際地域学科	入学定員160名
人間生活学部	子ども学科	入学定員　40名
	健康栄養学科	入学定員　40名

卒業式・入学式

●第1回卒業式を挙行しました

3月22日（金）に本学第1期生の卒業式を挙行しました。学長からは「新潟県立大学を育ててくれた第1期生の皆さんに感謝します。地域を支える人材として活躍することを期待します」との激励がありました。当日は穏やかで清々しい天気となり、卒業生を祝福しているようでした。

●新潟県立大学入学式

平成25年4月8日（月）に新潟県立大学第5回入学式を挙行しました。

多くの保護者の方々に見守られ、国際地域学部国際地域学科189名、人間生活学部子ども学科40名、健康栄養学科40名、総勢269名が入学しました。入学生を代表し、人間生活学部子ども学科の品田華那さんが宣誓を行いました。

就職

JR東日本 新潟支社 新潟駅営業係

南雲也実（国際地域学科1期生）

今働いている会社の最終面接ではとても緊張し終始震えていたのを覚えてます。面接の質問も、その場で考えて答える質問が大半でした。しかし、私は緊張しながらも質問の一つひとつに答えることができました。今考えると私がこの会社に入社できた理由は、この会社で働く自分がはっきりとイメージできていたからだと思います。この会社で何をしたいのか自分の考えを持っていたので、いくら緊張していてもしっかりと答えられました。

就職記事

木村美香（子ども学科1期生）

私は入学するときから保育士になろうと決めていましたが、どこに就職したいのかという進路がはっきりしたのは、大学3年生の頃でした。実際に3年生の時に保育所での実習を体験してみて、子どもたち一人ひとりに寄り添う保育士の仕事にやりがいを感じ、やっぱり将来、保育士になろうという気持ちが明確になりました。就職試験は4年生の夏に集中していたので、4年生の春から本格的に試験の準備を始めました。私は公立の保育所を希望していたので、保育士用公務員試験の市販の参考書や公務員試験対策集中講義を活用し、わからないところは友だちと協力しながら解くなどして乗り越えました。そして、その結果、念願だった公立保育所に就職することができました。

就職活動体験記

堀越さな恵（健康栄養学科1期生）

私は実家のある宮城県職員管理栄養士としての採用が決まった。これだけみれば就活の成功例とも捉えられるが一概にそうとは言い切れない。私は就活開始より早くアナウンススクールに通っていた。アナウンサー志望だったのだ。いざ個別企業説明会に行くと他の受験生に圧倒され望むような結果は得られなかった。3月になり、もう一つの憧れであった海上自衛隊の試験のため公務員の勉強に本腰を入れた。必死に勉強したが、夢は破れた。そんな時ふと立ち寄ったキャリア支援センターに宮城県職員募集の要項があった。「管理栄養士1名」と書いてあるそれは、アナウンサー試験で見慣れた狭き門であった。受験申込期限はその日の17時だったので急いで申し込んだ。3月から勉強はしていたのでそのストックが活きたし、面接もアナウンサー志望という強敵の中で揉まれた経験があったので苦ではなかった。慣れない就活のヒールで転び剥離骨折をして松葉杖での面接を行うアクシデントもあったが、結果は49倍の倍率を乗り越えて宮城県に合格した。自分だけでなく家族・先生・友人が驚き混じりに喜んでくれるのが嬉しかった。

私の就活はスムーズではなかった。今もこれで良かったのか疑問に思うこともある。しかし、この結果を得るために経験した事は無駄ではないし、むしろ不可欠だったと思う。何事にも満足するまで自分で挑戦し決断していたからこそ、この結果は得られた。次年度から就活する後輩たちにも悔いなく頑張ってほしいと願う。

最後に、親身になって相談に乗ってくれたキャリア支援センターの方々、面接練習をしてくれた方々、卒業研究と上手くバランスをとりながら就活を行わせてくれた先生方、本当にありがとうございました。

国家試験結果

社会福祉士国家試験

子ども学科 准教授 植木信一

合格率全国平均18.8%（平成24年度）、つまりほぼ5人に1人しか合格することができない国家資格が社会福祉士です。子ども学科では、この難関資格の受験資格を得ることができ、開学から最初の受験となる1期生は、合格率55%（平成24年度）、11人の合格者を輩出することができました。この合格率は、全国218校中第13位の好成績でした。卒業した1期生たちは、プロのソーシャルワーカーとして誇りに満ちた表情で巣立って行きました。

管理栄養士国家試験 合格率

健康栄養学科 准教授 金胎芳子

平成25年3月17日（日）に実施された第27回管理栄養士国家試験を、本学科第1期生が受験しました。5月7日（火）に合格発表があり、本学科の合格率は、83.3%でした。全国の合格率は38.5%ですが、その内訳は管理栄養士養成課程（新卒）82.7%、管理栄養士養成課程（既卒）7.9%、栄養士養成課程（既卒）10.1%でした。合格した卒業生たちは、各自の目標に向かって新しいスタートをきりました。

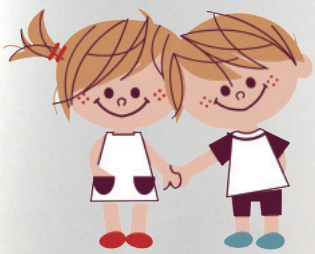
卒業研究発表会

子ども学科

卒業研究発表会

子ども学科 准教授 小池由佳

2月15日午後より子ども学科4年生による「卒業研究発表会」が行われました。学生たちは3年間の学びを基盤とし、それぞれの関心に合わせてテーマを設定、1年間研究を進めてきました。「子ども」をキーワードに教育・保育・福祉・心理・保健・表現活動と多様な視点での研究が報告されました。限られた時間のなかで、1年間の成果を発表することで、自らの研究を見直す機会にもなったようです。また、発表する4年生たちの姿を見る3年生たちの真剣さも印象的でした。



国際地域学科

卒業研究発表会

国際地域学科 教授 石川伊織

国際地域学部国際地域学科の第1期卒業生による、卒業研究の発表会が、2月2日（土）に開催されました。当日は、午前10時から午後5時まで、9会場に分かれて口頭による研究発表が行われましたが、ほかにもポスターセッションあり、研究テーマに動画作品の制作を選んだ学生によるビデオ作品の上映会もあり、多彩で熱気ある発表会となりました。土曜日ではありましたが、発表する4年生は全員が参加し、3年生や2年生も多数見学しました。

伊藤舞（国際地域学部 4年生）

開学以来、学生も教授陣も、国際地域という学問を定義することを困難に思っていました。けれども、第1期生のみなさんの論文は、この分野の広がりを改めて実感させられる内容となっています。

研究対象は政治学や民俗学から身近なサブカルチャーにまで及び、それぞれが四年間かけて形成した「国際」や「地域」に抱くイメージや価値観が現れ出ています。今後もこの多様性を武器に、学生が自由に学問を楽しめる大学として発展していくことを期待します。

健康栄養学科

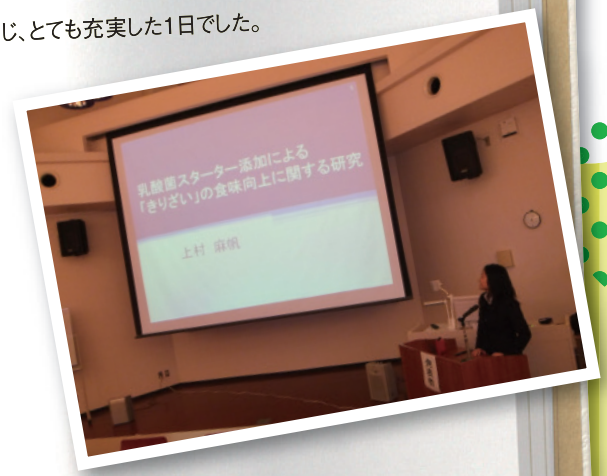
卒業研究発表会

健康栄養学科 准教授 村松芳多子

平成24年12月19日（8:30～18:00）に健康栄養学科 卒業研究発表会を開催しました。新潟県立大学での第1回の卒業研究発表会でした。第1期生たちは1年間の研究成果を必死にまとめ発表しました。学生も緊張していましたが、先生方も緊張していたように感じました。学生たちは、自分が大学生であることを自覚し、飛躍できたことを味わえた瞬間だったと思います。

上村麻帆（健康栄養学科1期生）

仲間の一人一人が4年間の集大成として、自らの研究成果を懸命に発表し、興味深い内容がたくさんありました。また、学生、教員問わず、質疑応答が活発になされていました。大学生活の中で最も緊張しましたが、自分自身の成長を肌で感じ、とても充実した1日でした。



学生生活 学生活動

平成25年度体育祭

5月15日（水）、毎年恒例の『新潟県立大学　体育祭』が開催されました。綱引きや玉入れ、バレー、リレー等、いろいろな競技を行いました。このイベントを通して、他科の学生や教員ともスポーツを通して新たな交流が生まれ、楽しみや達成感を共有できました。

学生歌を知事に披露

学生有志が今春初の学生歌を作成し、この度頒布用のCDが完成しました。それを受け、6月18日(火)に泉田知事を訪問し、学生歌「明日の向こうへ」を披露しました。知事からは「すばらしい歌ですね」とお褒めの言葉をいただき、また、知事のツイッターにも紹介していただきました。

学生たち自らが作詞作曲した学生歌を、永く歌い継いでほしいと思います。

花壇が彩られました

4月28日（日）、大学構内の花壇に真っ赤なサルビアの苗を植えました。

作業は、ぷれジョブ大形さんを中心に、大形地域のボランティアサークルじゃがいもの会、夢・農園（市民農園）の皆さんにご協力いただき、新潟県立大学の学生・教職員と一緒に行いました。

天気にも恵まれ、学生は地域の方々とふれ合いながら作業を楽しんでいました。

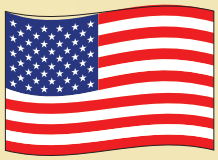
海外研修留学

中国
北京

国際地域学科　宗村英里佳

私は10ヶ月間北京の清華大学に語学留学をしました。私を娘のように可愛がってくれる中国人のおばさん、寮生活を共に過ごしたミャンマー人のルームメイト、世界各国から集まる優秀な学生、北京で仕事をする日本人の方々、日本にいたときの自分の枠では決して出会うことのなかった人々と出会い、繋がりをつくれたことが、留学を通して得た一番の財産です。今年の夏は北京で少数民族に関する卒業研究の現地調査を行います。学んだ言語を実践で活かし、大学生活の集大成となる研究成果を出せるよう頑張ります。

アメリカ
ウィスコンシン州



国際地域学科　土田章代

私は語学留学でアメリカのウィスコンシン州へ行き、9ヶ月間生活をしていました。進学コースを選択したため、放課後や週末は宿題で忙しかったですが、合間を見つけて様々なアクティビティに参加しました。地元の湖を利用したセイリングクラブやホストファミリーと過ごしたサンクスギビングなどが楽しかったです。また、英語力の維持・向上が今後の私の課題ですが、新潟県立大学にはネイティブスピーカーの先生と気軽に関われたり、SALCなどの施設もあるので、それらの環境を利用していきたいです。

授業紹介

Oral Communication

国際地域学科 教授　福嶋秩子

「Oral Communication」では、中学・高校で学習した基礎的な知識を実際に活用し、コミュニケーションを円滑に進めるためのスキルを身につけることを目指します。会話やスピーチ、プレゼンテーションなど意味のあるコミュニケーション活動を通じて、コミュニケーション能力を高めます。私が担当するクラスでは、語彙の導入とリスニング活動、それを応用したスピーキング活動という流れで行っています。

国際地域研究入門

国際地域学科 教授　黒田俊郎

本年度から新設された国際地域学部1年前期の必修科目。4つの専門コース（国際社会、比較文化、東アジア、地域環境）の内容を紹介しながら、学部の表看板である「国際地域学」とは何かを考えることを目的とします。と真面目に書いてみましたが、担当教員は11人でゲストが4人、それぞれに個性豊かな面々なので、授業の行き着く先は霧のなかです。多彩な議論に幻惑されるかもしれません。それもまた大学で学ぶ楽しみです。

図画工作

子ども学科 教授　戸澗幸夫

図画工作では、幼稚園・保育所等の保育現場で造形表現活動が展開できる能力を高めるため、いろいろな技法、素材、用具の扱いが豊富に体験できる内容の演習を行っています。また、子どもの実態に合わせて適切な題材選びや題材の膨らませ方を学びます。自ら創作を通して、子ども達への援助・指導ができるよう、声かけの仕方や制作の留意点などについて身につけます。

食品衛生学実験

健康栄養学科 准教授　村松芳多子

食品衛生学の講義と関連しています。ヒトは食べ物を口から摂取し生命を維持しています。食べ物が原因で健康を害することも多く、そのため飲食に起因する問題の発生を 防止し、さらに公衆衛生の向上に寄与できるよう、微生物等の扱い方を習得します。主に微生物、食品の変質、食品添加物の検出、食品汚染など、食品衛生の手法と食の安全と安心について理解を深めます。

空間デザイン演習A（住居）

国際地域学科 教授　山中知彦

地域を構成する最も身近な原単位としての住まいのデザインについて学ぶ演習項目。それについて学生からコメントしてもらいました。

国際地域学科 地域環境コース 3 年　飯岡環

「大学付近の一軒のお宅の敷地をデザインする」というテーマのもと、ただ敷地を独立したものとしてデザインするのではなく、その地域を構成する要素であるということをふまえつつ、敷地周辺を調査し、住んでいる人に尋ね、その情報からグループで案を練っていきました。この講義を通して、住環境を考えるうえで地域とのつながりを考えることの大切さを学ぶとともに、人に見せることや話すことなどの「伝える」力が身についたと思います。

歴史学

国際地域学科 講師　荒木和華子

カリキュラム変更により、基盤科目（選択）に本科目が加わりました。まず現在の状況・問題理解における歴史的視点の有効性を確認し、歴史と「正義」をめぐって特にPC、表象、ステレオタイプ、人権、「表現の自由」等を取りあげました。受講生約70名を10班に分けてディスカッション後に行ったディベートは白熱。今後は伝統的歴史学に挑戦してきたアプローチ ― 社会史、ミクロ史、民衆史、ジェンダー、サバルタン、ポストコロニアル、グローバル・ヒストリー ―を紹介予定です。

ゼミ紹介

李佳ゼミ

私の研究領域は、開発学と経済学の境界に位置します。途上国の多くでは、開発によって、貿易の拡大や資本移動の増大といった経済活動のグローバル化の一方、環境問題の顕在化や貧富の格差が生じています。本研究室では、持続可能な社会システムの模索をキー・コンセプトとして、経済学の理論を用いて途上国の現実の深い理解を目指します。学生の自主性を尊重しますので、対象地域やテーマを自由に設定できます。チャレンジ精神旺盛な学生の入室を期待します。

山中知彦ゼミ

「授業時間外の多くの思考や作業をいとわず、厳しい指導のもとで高いレベルを目指す履修生を求めます」というシラバスのハードルを飛びこえてきた4人。山中研では、学生自ら卒研のテーマを探し出して磨き上げますが、教員は徹底的に思考や行動の不足を指摘するのみで、具体的方向は示しません。迷いながら自問し答えをつくりだす問題解決能力と打たれ強さを身につけることが、履修生の共通目標となります。

沼野みえ子ゼミ

4年生になるとゼミを決めて、1年間かけて卒業研究をします。一般に卒論と呼ばれているものです。沼野ゼミでは、まず自分を知りお互いを知ろうとチェックリストをしました。自分に気づくとともに友だちの教室では分からなかった面をたくさん知り、お互いの距離がぐっと縮まったようです。施設見学にも出かけ、徐々に卒論のテーマを絞っていき、最後には各自の研究テーマに沿った卒論を書きあげました。このような濃厚な日々を通して、卒論の完成だけでなく生涯の友情が芽生えるとい

後藤岩奈ゼミ

「卒業研究」を研究室で行うのが困難(?)なため、空き教室でやっています。ゼミ生は中国の社会や文化、人々の生活などから、各自関心のあるテーマを調べます。昨年度の学生は中国の短編小説を翻訳しました。今年度の学生は、文学作品の分析や翻訳、中国や香港の映画の分析、社会問題の分析をやる人もいます。まだ決めてない人もいます。各人とも自分なりの中国に対する視点を培って欲しいと思います。そのための支援をします。

渡邊令子ゼミ

「栄養科学」の研究室です。研究テーマは、①米のタンパク質の健康機能を探求すること、②元気な後期高齢者（75歳以上）の食生活と健康との関連を調べることの2本立てですが、実は点から線へとつながっています。1期生の言葉から、「自分の研究に関連する英語論文の抄読会はとても勉強になっています」、「動物実験のサンプリングの日は研究テーマが違っても全員で協力し、打ち上げをやります」など…。卒業研究を通して学内外でいろいろな経験を積み、自分で考えて行動できる人を目指しています。

教員の1冊

Recommended Books

チルドレン

子ども学科 講師　角張慶子

伊坂幸太郎の『チルドレン』。子ども学科らしい題名のこのミステリー小説をご紹介します。

家庭裁判所の調査官となった〈陣内〉を中心とした物語。彼の言動はときとして乱暴で周りを混乱させるけれど、彼ほど少年に慕われている調査官はいない、という。それはなぜか？ 私は、登場人物の一人である盲目の青年が街で望まぬ施しを受けた際の陣内の「心のバリアフリー」とでも言うような反応がとても好きです（どんな反応かは読んでのお楽しみ）。そしてここに先ほどの問いの答えのひとつがあるように思います。ミステリー小説だけれど、子どもや他者と向き合うとはどういうことだろう、と考えさせられる1冊。

おまけに……伊坂幸太郎の書く物語の舞台はその多くが仙台だと言われています。仙台に縁のある方は2倍楽しめるのではないでしょうか。私も大好きな街です。

図書館紹介

Library introduction

電子ジャーナル

図書館は学術雑誌を多く所蔵していますが、紙媒体だけでなく、「電子ジャーナル」というオンラインで本文を読むことのできる雑誌もあります。図書館へ足を運ぶことなく学内ならどこでも、24時間いつでも論文を読むことができる便利なサービスです。

Satellite
東京サテライト

1 GR:EENワークショップ

1月29日、30日に早稲田大学日米研究機構にてGR:EEN(Global Re-ordering: Evolution through European Networks)ワークショップが開催され、学長の猪口孝が出席しました。猪口学長は、1月29日のレセプション冒頭にて、GR:EENプロジェクト並びにワークショップへの意見とアジアの地域協力・地域統合に向けたリーダーシップの現状・課題などについて講演しました。

2 会議～新しい日露関係と専門家対話「移行期の日本とロシア」

2月13日東京大学山上会館にて『新しい日露関係・専門家対話ー移行期の日本とロシアー』が開催されました。この会議では、学長の猪口孝を始めとして日露双方から最高のエキスパートを一同に会し、政治、経済、外交、安全保障における日本とロシアの構造的、政策的な問題の洗い出しが行われ、日露両方の視点から今後の対応策について活発な議論が交わされました。

編 集 後 記

新潟県立大学広報誌第9号が完成しました。今春、1期生が巣立ち、開学5年目を迎えました。初めての卒業式、就職・国家試験結果、卒業研究発表会、学生生活・学生活動、海外留学、ゼミ紹介など本学の現状を知っていただくため、ホットな情報記事を満載いたしました。お読みいただいてお気づきの点などありましたら、ご意見をお寄せください。

■連絡先

新潟県立大学
〒950-8680
新潟市東区海老ケ瀬471番地
TEL：025-270-1300
FAX：025-270-5173
E-mail：unp@unii.ac.jp

新潟県立大学 東京サテライト
〒113-0024
東京都文京区西片1丁目17番8号 KSビル9階
TEL:03-5803-6955
FAX:03-5803-6971
E-mail：unptokyo@unii.ac.jp